



全国で唯一の女性森林組合長
西諸地区森林組合 代表理事組合長

たいら な お み
平 奈緒美 さん(71)

50年先を見据えて
子や孫の世代が安心して水が飲めるよう
森を守っていかねばならない

林 小 人
こばやしびと
Vol.90

森林の伐採から植林、管理を行い、森が持つ機能發揮と林業の成長を担っている森林組合。全国に600以上ある森林組合のなかで唯一の女性組合長が、西諸地区森林組合代表理事組合長の平奈緒美さんだ。

平さんは、昭和55年に高原町森林組合(当時)の事務員として採用された。働き始めた当時の組合には常勤の役員を除くと、職員は平さん一人。山や組合のことなど何もわからないまま就職したため、初めての現場にはスカートとスリッパで行ってしまった。それでも現場に通い、仕事を学んでいった。

「現場作業員さんと一緒に作業をしたこと、雪の降る日に鍋を作っていたことなど、大変だったけれど良い思い出です」と当時を

振り返る。

平成13年に組合が合併した後は、参事や専務理事を歴任し、平成23年に組合長に就任した。

「自分が組合長まで務められていたのは、多くの方々に助けられたから。感謝の気持ちは忘れません」。

今、林業は戦後に植林された木が出荷時期を迎えている。高性能な機械で伐採作業は効率化している。しかし、植林はまだまだ手作業が中心。人手不足や、山林所有者の事情もあり、伐採後に植林されない裸の山も

増えている。

森は雨水を蓄え、きれいな水へろ過する機能を持つ。私たちが今飲んでいる水は、およそ50年前に降った雨が、先代が守ってきた森を循環し湧き出た水。

「先人の思いを受け継ぎ、50年後を生きる子や孫世代のために森を守っていかねばなりません。切って・使って・すぐ植えることが何よりも大切です」と力強く話す平さん。

その目は、常に50年先の森と水をしっかりと見据えている。



写真① 夷守台の整備では調査のため山中を駆けた ② 森林組合では、森を守るための普及活動にも取り組んでいる